

つくしだよりから

知っていただくさる

「慈しみをいただいてわたしは喜びおどります。

わたしの苦しみをごらんになり

わたしの魂の悩みを知ってくださいました。」

詩篇31篇8節より

聖書って一見むずかしそうですが、よく読むと子育てのヒントがいっぱい。たとえば右の聖句。詩人は大きな苦しみを抱え、魂も悩み、なえはてていました。しかし今、神さまの慈しみをいただいて躍り上がって喜んでいて、と。どんな慈しみだったのでしょうか。問題が解決したのでしょうか。いいえ。解決はたぶんしていません。では、なぜ喜んでいるの？ それは、神さまが自分の苦しみを「知ってくださいました」から。

おさない心もこの聖書の詩人と同じ。ある日、わたしの目の前で一人の子が、すってん、と転んでしまいました。お怪我はありません。でも、

びっくりしたのでしよう、涙がとまりません。

「大丈夫だよ」「怪我はないよ」「立ってみようか？」励ます言葉を、頭をフル回転させて考えるが、どれも効果ありません。そのとき、泣き続ける子にこんな言葉を保育士がかけました。

「いたかったね……」。

そういつて涙をふいてあげると、その子は泣くのをやめ、自分の力で立ち上がりました。

人間の心って不思議。わたしたちの人生も苦しみや悩みが訪れる。深い苦しみ、悲しみであるほど解決はむずかしい。友だちや他の誰であっても何もしてあげられない。でも、「いたかったね……」。その一言で立ち上がる事ができる。本当にほしかったのは解決ではない。本当にほしかったのは、ずっとそばにいて、あなたの痛みを知っているよといってくれる人。

時代や場所や年齢もこえて、人間の心の不思議はかわりません。